

委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成、行数は任意で追加)

委員会名	文教厚生常任委員会			
参加委員	◎上野 利一郎	○菊地とも子	矢吹 哲哉	山口 文章
◎委員長、○副委員長	蛭川 靖弘	長澤 勝幸	佐原 正秀	

1 本市の課題と視察の目的

本市においては、不登校等の諸対策として各小学校に予約制のスクールカウンセラーを配置するとともに、不登校の児童生徒に限ったものではないが、子どもの居場所づくり事業の一環として子どもの生活・学習支援を昨年度から市内の市民団体に委託し、取り組んでいる。

このような状況から大和郡山市が取り組んでいる不登校対策総合プログラムを本市の施策の参考とするため研修を実施した。

2 実施概要

実施日時	視察先	奈良県 大和郡山市
令和元年 7 月 24 日 (水) 9 時 20 分～11 時 00 分	担当部局	大和郡山市 学校教育課
視察項目	不登校対策総合プログラムについて	
報告内容	1 不登校対策総合プログラム経過について 平成 9 年に開設したあゆみの広場を開設した当時は、不登校の子どもの減少にはなかなかつながらなかったが、近年は以前と比べると減少傾向にある。	
	平成 9 年 適応指導教室「あゆみの広場」開設 平成 15 年 構造改革特区申請 平成 15 年 8 月 特区認定「不登校児童生徒支援教育特区」 平成 15 年 4 月 学科指導教室「A S U」開室 ※AYUMI SQUARE UNIVERSE	
	2 人員体制について 教員 10 名 (常勤 3 名 非常勤 7 名) ※全員教員免許取得者 その他、市指導主事 1 名、カウンセラー 3 名など	
	3 学科指導教室「A S U」について (1) 概要等 不登校の児童生徒が明日へと生きる希望をつないでいけるよう構造改革特別区域計画において、学科指導教室「A S U」を設置し、独自の学習カリキュラムによる「教育課程の弾力化」、「市費負担常勤職員の配置」などを行い、不登校児童生徒に新たな学びの場を提供している。また、その他、特色としてはカウンセラーによる心理的な支援、大学生との連携による学習支援協力、A S U作成の調査書で高校受験が可能になった (平成 17 年度入試～)。 (2) 基本方針 A S Uの取組として以下の 3 つの柱を重視しており、特に子供の心の居場所づ	

	くりに最も重点を置いている。 ア 子供の心の居場所づくり イ 豊かな体験活動 ウ 進路保障 (3) 在籍児童生徒数 毎年 25 名前後 (R 元. 7 月現在 18 名) 例年、25 名程度になるが長期の休み、夏休み・春休みなどが終わると増える傾向にある。 (4) 卒業後の進路 卒業生のほとんどが高校に進学している。近年の状況は以下のとおり ・平成 30 年度 全員進学 (公立 5 名 私立 4 名) ・平成 29 年度 " (公立 7 名 私立 3 名) ・平成 28 年度 " (公立 5 名 私立 4 名) (5) 期待される効果について ・地域社会に有為な人材の育成及び不登校児童生徒の減少 ・教員の資質向上等、学校教育の向上 ・不登校についての社会的認知の深化
考 察 (まとめ)	本市においても様々な理由により不登校となっている子供たちがおり、その子供たちや保護者が安心して通うことができる居場所・施設の在り方を検討する上で、学科指導教室 A S U の基本理念、支援体制、効果など大変参考になるものであった。 本委員会においても本市の現状などを調査し、どのような形が本市に適しているのか検討してまいりたい。

